

教育・研究などへの取組状況(令和5年度)

総合工学システム学科	系・コース
	プロダクトデザインコース
職階	氏名
講師	勇 地有理

項目	取組状況
教 育	<p><u>担当科目</u></p> <p>プログラミング基礎(2D)、情報処理Ⅱ(3M)、マイクロコンピュータ(3M)、加工工学Ⅱ(5M)、機械システム実習(3M)、機械システム実験Ⅰ(4M)、基礎研究(4M)、卒業研究(5M)</p> <p><u>担当科目の取組状況(工夫・改善した点)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Google Classroom等を利用して、どこからでも授業や課題に取り組めるように取り組んだ。</li> <li>・演習の時間を増やすため、授業動画を事前にオンデマンド配信し、授業時間に演習問題に取り組む反転学習を実施し、学生のアクティブラーニングを促進した。</li> <li>・各授業でデータサイエンスや人工知能の基礎となるデータ解析の基礎を学べるように展開した。</li> </ul> <p><u>特記すべき教育方法の実践例</u></p> <p>基本的には授業中に学ぶことを想定に置きつつ、休んでしまった場合や、予習・復習ができるように教材はGoogle Classroomで管理した。反転授業を実施した。</p>
研 究	<p><u>紀要、解説、総説、学会・シンポジウム・セミナー等での発表等</u></p> <p>野田達夫, 勇地有理, 安藤太一, 『高専生によるオンライン公開講座の取り組み』, 第29回 日本高専学会 年会講演会、口頭発表(2023)</p> <p>内田陽斗, 井上龍之介, 勇地有理, 『感性工学を利用したイケボの物理的特性解明』, 第29回 日本高専学会 年会講演会、ポスター発表(2023)</p> <p>野田達夫, 勇地有理, 安藤太一, 『2022年度 FARAD 活動報告』, 大阪公立大学工業高等専門学校研究紀要 第57巻, pp33-34(2024)</p>

社会貢献	<p><u>公開講座・出前授業の取組状況</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 公開講座「ゼロから始める機械学習 ～Scratchで画像認識ゲーム作り～」</li><li>• 公開講座「わかる！3Dプリンタ ～おしゃれメガネを作ってみよう～」</li><li>• 公開講座「入浴剤&amp;せっけんをつくろう！」</li><li>• 公開講座「LEGO ロボットプログラミングを体験しよう！」</li><li>• 出前授業「AIによる画像認識体験」</li></ul>
------	---

教育・研究などへの取組状況(令和4年度)

総合工学システム学科	系・コース
	プロダクトデザインコース
職階	氏名
講師	勇 地有理

項目	取組状況
教 育	<p><u>担当科目</u></p> <p>情報1(1年)、情報処理Ⅱ(3M)、マイクロコンピュータ(3M)、加工工学Ⅱ(5M)、機械システム実習(3M)、機械システム実験Ⅰ(4M)、基礎研究(4M)、卒業研究(5M)</p> <p><u>担当科目の取組状況(工夫・改善した点)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Google Classroom等を利用して、どこからでも授業や課題に取り組めるように取り組んだ。</li> <li>• 演習の時間を増やすため、授業動画を事前にオンデマンド配信し、授業時間に演習問題に取り組む反転学習を実施し、学生のアクティブラーニングを促進した。</li> <li>• 各授業でデータサイエンスや人工知能の基礎となるデータ解析の基礎を学べるように展開した。</li> </ul> <p><u>特記すべき教育方法の実践例</u></p> <p>基本的には授業中に学ぶことを想定に置きつつ、休んでしまった場合や、予習・復習ができるように教材はGoogle Classroomで管理した。反転授業を実施した。</p>
研 究	<p><u>著書</u></p> <p>笹島 茂, 高橋 昌由, 上杉 裕子, 岡崎 久美子, 谷野 圭亮, 川上 太知, 勇 地有理, Brian Shaw, Aleksandra Zaparucha, 『CLIL in English CLILで学ぶ工学と社会』, 南雲堂, 2023.</p> <p><u>学術論文執筆</u></p> <p>Chiari Isami, Hiroki Yamamoto, Sachiko Sukigara (2022), “Visuo-haptic Cross-modal Recognition for Fabrics: Part2</p>

	<p>Effect of Fabric Feature” , Journal of Textile Engineering. Vol. 68(2): 21-30</p> <p><u>紀要、解説、総説、学会・シンポジウム・セミナー等での発表等</u></p> <p><b>勇地有理</b>, 鋤柄佐千子, 『布の視触覚クロスモーダル再認における表面性状の影響』, 日本繊維機械学会 第 75 回年次大会, 口頭およびポスター発表 (2022)</p> <p><b>Chiari Isami</b>, Sachiko Sukigara, “Analysis of distinguishability for fabric tactile feature related to the visuo-haptic cross modal information transfer” The 49th TEXTILE RESEARCH SYMPOSIUM, 口頭発表 (2022)</p> <p>北野健一, 伏見裕子, <b>勇地有理</b>, 東田卓, 山下良樹, 栗田佳代子, 『2021 年度アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ開催報告』, 大阪府立大学高専研究紀要 第 56 巻, pp11-16 (2023)</p>
<p>社会貢献</p>	<p><u>公開講座・出前授業の取組状況</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座「ゼロから始める機械学習－Scratch で画像認識ゲーム作りー」</li> <li>・オンライン公開講座「水と油が混ざる?! マヨネーズ作り」</li> </ul>

教育・研究などへの取組状況(令和3年度)

総合工学システム学科	系・コース
	機械システムコース
職階	氏名
助教	勇 地有理

項目	取組状況
教 育	<p><u>担当科目</u></p> <p>情報処理Ⅱ(3M)、マイクロコンピュータ(3M)、加工工学Ⅱ(5M)、機械システム実習(3M)、機械システム実験Ⅰ(4M)、基礎研究(4M)、卒業研究(5M)</p> <p><u>担当科目の取組状況(工夫・改善した点)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Google Classroom等を利用して、どこからでも授業や課題に取り組めるように取り組んだ。</li> <li>・演習の時間を増やすため、授業動画を事前にオンデマンド配信し、授業時間に演習問題に取り組む反転学習を実施し、学生のアクティブラーニングを促進した。</li> <li>・各授業でデータサイエンスや人工知能の基礎となるデータ解析の基礎を学べるように展開した。</li> </ul> <p><u>特記すべき教育方法の実践例</u></p> <p>基本的には授業中に学ぶことを想定に置きつつ、休んでしまった場合や、予習・復習ができるように教材はGoogle Classroomで管理した。反転授業を実施した。</p>
研 究	<p><u>学術論文執筆</u></p> <p>Chiari Isami, Aki Kondo, Aya Goto, Sachiko Sukigara, "Effects on Viewing Distance on Visual and Visual - Tactile Evaluation of Black Fabric", Journal of Fiber Science and Technology, Vol. 77(2): 56-65(2021)</p> <p>Chiari Isami, "Changes in Fabric Tactile -Visual Impressions Related to the Working Memory", Kyoto Institute of Technology doctor thesis (2021)</p>

	<p><u>紀要、解説、総説、学会・シンポジウム・セミナー等での発表等</u></p> <p>野田達夫, 安藤太一, 山下良樹, <b>勇 地有理</b>, 田中翔吾, 中田裕一, 『高専生を主体とした動画教材作成の試み』, 大阪府立大学高専研究紀要 第55巻, pp17-22 (2021)</p>
<p>社会貢献</p>	<p><u>公開講座・出前授業の取組状況</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座「3D プリンタでスピーカーを自作しよう」</li> </ul>